

動物園での暮らしを豊かにする取り組み「環境エンリッチメント」

動物園の動物たちは、野生と比べて安全な場所で安定して食物を得ることができます。また外敵に襲われることもないので、一般的には野生よりも動物園の方が長生きできます。

しかし、ただ長生きすれば良いというわけではなく、心も体も健康な状態で長生きしてもらうことが大切です。動物種によっては、毎日何の刺激もなく、変化の乏しい環境で飼育をすると、野生では見られないような行動をとるようになるものがあります。

ゾウを例にとってみましょう。

野生のゾウは群れで暮らし、多量の食物を食べ、長い距離を歩きます。また、水浴びや砂浴びも好みます。



砂浴び

このような動物が動物園で単調な暮らしを強いられると、その場に立ったまま体を揺らしたり、同じ場所を行き来したり、ずっと頭を揺らしたりするようになることがあります。これら、特に目的もなく同じことを続ける行動を**常同行動**と呼びますが、常同行動が多いほど、刺激の少ない環境で暮らしている可能性があります。

野生で常に「何か」をしていた動物達にとっては、「何もしない」ことは耐え難く、常同行動という形となって現れるのかもしれませんが。適度に刺激があり、様々な行動をとることができる環境であれば、動物たちは心身共に健康で、豊かな暮らしを送ることができるでしょう。

このような背景から、動物園スタッフが動物に対して行う取り組みとして、動物が日々過ごす環境を豊かで充実したものにする試みのことを「環境エンリッチメント」といいます。

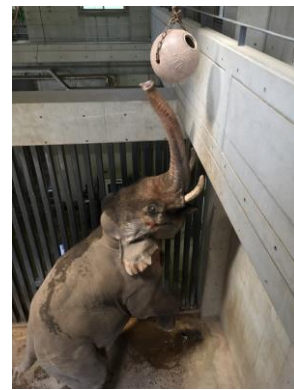
先ほどのゾウの飼育の場合には、他のゾウとの関わりがあるように複数頭で飼育したり、餌を与える時間や回数、与え方などを工夫したり、ゾウが好きな時に水浴びや砂浴びができる環境を整えたりします。



水浴び



鼻を伸ばしてバッグの中に入った乾草を食べます



ブイを振ると中に入ったペレットが出てきます

さて、環境エンリッチメントを行う上で注意することがあります。その取り組みがちゃんと動物のためになっているかどうか、評価することです。良かれと思ってやったことが、動物にとっては迷惑だったり、大きなストレスになってしまったりは逆効果です。

動物の本来の暮らしを正しく理解し、飼育下において足りていない点を補うという観点が大切です。何かの環境エンリッチメントを行う時には、実施前の動物の行動、実施後の動物の行動を記録して、効果の有無を評価します。

Plus Cycle 活動量計も効果を測定するためのツールとなる可能性があるため、今後も研究を続けて行きます。